

みんなで創る「みんなのファーム」

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



農事組合法人 平沢ファーム
(秋田市)

代表理事 齊藤 又右衛門

経営概況

経営面積 | 田: 94ha

作物 | 水稲、大豆、えだまめ、ねぎ、ダリア

構成員 | 役員5人 雇用 30人

販売先 | JA、直売所

秋田市雄和の平沢地区では、大規模なほ場整備を契機に「みんなのファーム」を旗印として(農)平沢ファームを立ち上げ、園芸メガ団地を活用した複合経営を行い、地域に雇用の場を提供しています。地域を基盤とした法人経営のあり方等について、齊藤代表とダリア部門の佐藤珠美部長にお話を聞きました。

きっかけ

秋田市雄和平沢地区では、高齢化や小区画農地、担い手不足のため不作付け農地が増えていました。こうした中、地域では「基盤整備をして先祖伝来の農地を守ろう」という気運が高まったことから、市役所を退職した齊藤さんが中心となり、法人設立発起人会を立ち上げました。何度も話し合いを重ね、大規模なほ場整備事業を契機に平成26年に4地域(農家 77 戸)をまとめた(農)平沢ファームを設立しました。



●令和5年度ふるさと秋田農林水産大賞(秋田県)を受賞

取組

平成 27 年には、秋田県の園芸メガ団地整備事業を活用し、えだまめ、ねぎ、ダリアの生産基盤を整備し、負債ゼロでスタートするため、農機具リースや各種補助事業を活用し、設立初年

度から約1千万円の黒字を確保しました。また、施設整備は法人としての体力が付いてから行うこととし、堅実な経営を続けています。

齊藤代表は、継続して農地を守るためには地域で支え合うことが重要と考え、「みんなのファーム」を旗印に地域の人を積極的に雇用し、定年退職者を役員に順繰りに加えています。また、地域内外から若い人がここで働きたいと集まってきます。

その一人であるダリア部門で働く佐藤珠美さんは非農家の出身ですが、6年前に同法人の門を叩きました。そこからダリアの栽培に取り組み、赤字が続いていたダリア部門を令和3年に初めて黒字化し、令和4年春から同部門の部長に就任しました。



●ダリアの管理をする佐藤部長

佐藤部長は「花は流行りがあるので、情報収集をしっかりと行い、作付け

する品種選びが重要。」と話します。齊藤代表もそのセンスを信頼しています。



●令和5年秋田県種苗交換会で農林水産大臣賞を受賞したダリア(品種: NAMAHAJE パール)

齊藤代表は、「若い人に働く場所として選んでもらうためには、男女別のトイレや休憩室の整備は当然であり、また、職員の心を一つにするため、毎日の情報共有と話し合いを欠かさない。」と話します。

これから

同法人では体験学習やインターンシップ及び各種研修を受け入れ、担い手の育成にも力を注いでおり、同代表は、「行政からの補助金の動向も気になるところだが、若い人に続けてもらうためにも、給与水準の引き上げに取り組まなければいけない。」と話していました。

